

氏名	露 野 嘉 彦
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 7 1 号
学位授与の日付	昭和39年 6 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	脾機能亢進症に関する実験的研究
論文審査委員	教授 平 木 潔 教授 小 坂 淳 夫 教授 妹尾左知丸

学 位 論 文 内 容 要 旨

家兎の腹部交感神経脾臓枝切断により、又、脾静脈及び胃冠状静脈結紮により実験的に貧血が起ることを観察した。即ち末梢血に於て赤血球数、血色素量、栓球数の減少、骨髓に於て赤芽球系細胞の増加及びその成熟抑制像を認めた。又、同家兎 Sideroblast は軽度減少が認められた。この貧血家兎の血清鉄量は著明な減少を示しこれに反し貯蔵鉄量は軽度増量を認めた。又腹部交感神経脾臓枝切断により貧血に陥った家兎の血清及び脾抽出液中には赤血球系及び白血球系両方に催貧血作用を有する毒性因子が存在することが認められた。

以上より本貧血の成因は手術により脾内に毒性因子が生じ、これが鉄代謝面に作用し臓器内貯蔵鉄の動員を障碍し、ために骨髓赤芽球の成熟抑制を来す他、直接骨髓にも働き白血球機能を低下せしめることを認めた。

岡山医学会雑誌 第75巻4, 5, 6合併号 昭和38年6月30日

論文審査の結果の要旨

露野嘉彦提出の「脾機能亢進症に関する実験的研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は、次の通りである。

脾機能亢進症における貧血の成因を追求する目的で家兎の腹部交感神経脾臓枝切断及び脾静脈胃冠状静脈結紮により実験的に所謂脾性貧血（赤血球数，血色素量減少，骨髓赤芽球系細胞の増加，血清鉄減少，臓器鉄増加，Sideroblast 減少）といわれる状態をつくることに成功した。

次に神経切断により貧血に陥った家兎血清を健康家兎に注射した所一過性の貧血招来を認めた。これは神経切断家兎血清中に催貧血性因子が存在するためと考えた。次に骨髓体外組織培養により本脾毒性因子は骨髓にも作用し白血球機能を低下せしめることを認めた。

以上により本貧血成因の一つは脾毒性因子が鉄代謝面に作用し貯蔵鉄の動員を障害し，血清鉄減少を来し，ために骨髓赤芽球の成熟を抑制する他，直接骨髓にも働き白血球機能を低下せしめることによると結論した。

以上の通り本論文は新しい知見に富み，学術上有益であり，著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。